



甘楽中学校の取り組み

新生、甘楽中学校（令和四年度）

令和四年度の異動で、甘楽中学校では、校長をはじめ、十二人の新しい先生が加わりました。「新しく生まれ変わる甘楽中」という意味を込めて、今回のテーマとしました。

甘楽中学校
校長 井上高広
生徒 310人



↑ ホームページは
こちらから

新しい先生の
意気込みを紹介します

- 素晴らしい環境のもと、やる気にあふれ毎日明るく気持ちの良いいあいさつをしてくれる生徒に、私も全力で頑張らねばと気持ち新たに日々です。
- 新しい校舎と素敵な先生たち、元気に明るいあいさつのできる生徒たちに囲まれ、スタートした四月でした。一緒に時間を過ごせることに感謝しながら頑張っていきたいと思っています。
- 歴史ある甘楽町にいられてうれしく思います。精一杯頑張ります。
- 甘楽中には共同事務室があり、恵まれた環境で仕事ができるのでうれしく思います。さらに良い学校になるよう、教育環境整備に努めていきます。
- 素晴らしい環境の甘楽中に来ることができて大変うれしく思います。大好きな甘楽中の生徒の

ために一生懸命に働きます。

- 甘楽中の生徒たちのパワーと笑顔に負けないぐらい、私も笑顔で心掛けていきたいと思っています。
- 豊かな自然と温かい地域の人々に囲まれて育った、明るく元気で素直な子どもたちと一緒に過ごせると思うと、胸が高まります。甘楽一中勤務当時から感じていた変わらぬ当地の温かさを、本年度からは味わいながら、甘楽中の子どもたちのために微力ではありますが力を注ぐ所存です。



一年生の
学年主任から一言

中学校での生活は小学校と違うところはもちろんありますが、今まで小学校で身に付けてきた力があれば大丈夫です。あせらずに一步步ずつ前進してほしいと思います。卒業まで約三年間、着実に成長していくよう甘楽中全職員で励まし、見守っていきたいと思っています。

二年生の
学年主任から一言

二年生は、長い人生の中でも大きなターニングポイントとなり得るとても大切な時期だと考えています。友人関係・進路・学習・部活動について考えたり、また思春期とも重なり、急激な体や心の成長に伴って、多くの課題が生じる時期でもあります。しかし、目標を持って前向きな気持ちで頑張ること、大きく自分の力を伸ばせる、やりがいのある時期でもある



中学校生活がスタートした1年生

ともいえます。この大切な時期の生徒たちがより大きく成長できるよう、学年担当教員一丸となって、精一杯頑張っていきます。

提 言

とうりせいけい
「桃李成蹊」

甘楽中学校
校長 井上高広



四月より校長を仰せつかりました井上高広と申します。改めて、よろしく願ひいたします。

本校に赴任してから、数カ月が経つとついています。毎日、明るい笑顔で、あいさつをしてくれる子どもたちに元気をもらっています。素直な子どもたち、協力してくださる保護者、地域の方々に出逢うことができて、本当にうれしく思っています。

このような子どもたちの姿から、ある故事成語を思い出しました。「桃李成蹊（とうりせいけい）」という言葉です。

「桃李成蹊」とは、司馬遷の『史記』で引用された「桃李不言 下自成蹊（桃李ものいはざれども、下おのづから蹊へこみち）を成す。」からきています。「桃や李（すもも）は何も言わないが、美しい花や良い香りの果実を求めて人が集い、その樹木の下には自然と蹊（こみち・小道）ができる。」という故事です。

桃や李は、人格者であることの例えで、そのような人物は黙っていても、徳を求めて人々が集まってくるという意味もあります。

「明るい笑顔で元氣よくあいさつができる。」「人の言うことを素直に聴くことができる。」「このような魅力ある子どもたちとともに、よりよい学校経営を進めてまいります。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。」



人生のターニングポイントを迎えた2年生

があるかもしれません。しかし、努力を続けていけば必ずしも必ず結果となつて現れるはずで「大海の水も一滴から」。日々の取り組みが、大きな実を結ぶ一年となることを祈っています。

そして、まわりの人に笑顔を向け、相手の気持ちや立場を理解する心掛けも大切に、お互いが支え合い、高め合える学年を創り上げてほしいと思います。



次のステップに向け努力し突き進む3年生

三年生の
学年主任から一言

今年度は、中学校生活最後の一年間となります。大切なことは、今の前向きな気持ちをずっと持ち続けて努力していくことです。目標達成の途中にはいろいろな困難